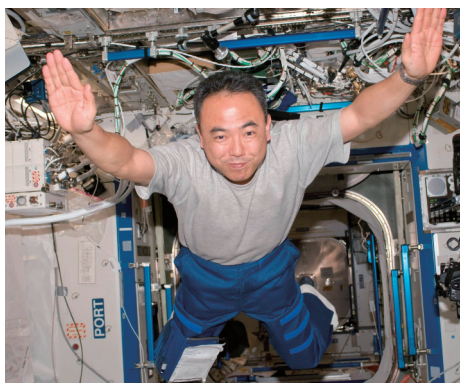


「宇宙と話そう! 銀河教室」

古川聡宇宙飛行士と被災地の子どもたちがリアルタイムで対話

国際宇宙ステーション(ISS)に長期滞在中の古川聡宇宙飛行士と子供達がリアルタイムで交信するイベント「宇宙と話そう! 銀河教室」(毎日新聞社主催)が8月1日、茨城県つくば市の宇宙航空研究開発機構(JAXA)筑波宇宙センターと宮城県大和町の東京エレクトロン宮城の特設会場をISSと衛星回線で結び開催されました。



宮城会場には東日本大震災で被災した東北地方の小中学生など150名が招待され、全校児童の約7割が津波の犠牲になった石巻市立大川小小学校の全児童22名も参加しました。古川さんからの激励メッセージの後、児童を代表して大川小6年の木村真博君(11)が古川さんへのメッセージを読み上げました。ほかにも、被災地の様子を絵画や俳句で表現した作品をDVDに収録し、ISSに届けるプロジェクトに参加した大川第一中学校1年の神田七海さん(13)は、姉の瑞季さん(16)と共に



「宇宙から見た、大川は何色に見えるか?」と質問。古川さんからは「昼は緑が美しく、夜は街の明かりに活気を感ずる。力強く復興していると思います」というメッセージを受け取りました。古川さんと被災者が対話するのはミッジョン開始後初めてで、他メディアの取材も多数入る中、イベントの開催にあたってはTBSテレビの人気番組「飛び出せ! 科学くん」が全面協力、番組MCの田中直樹さん(ココリコ)と歌手の



中川翔子さんがイベントの司会も務め子供達を喜ばせました。

またこのイベントは、古川さんに毎日新聞の臨時ISS宇宙支局長として宇宙からの様々な情報を本紙およびグループメディアを通じて発信し、日本の有人宇宙開発の取り組みへの理解を深める「毎日新聞宇宙支局長キャンペーン」の一環として実施。科学環境部、毎日小学生新聞、社長室、広告局、ビジネスソリューション本部など本社横断の連合チームでJAXA全面協力のもと実現しました。(科学環境部、ビジネスソリューション本部)



著名作家が語る「嗜好と文化」 豪華メンバーでトークショーを開催

国内を代表するストーリーテラーが、愛してやまない嗜好(しこう)品の魅力などをインタビューで語る創刊140年記念事業企画「嗜好と文化」(日本たばこ産業(JT)協賛、日本推理作家協会協力)を4月から毎月1



回、本紙運動面で連載しています。

企画の環で6月30日にはトークショー「JTプレゼンツ 嗜好と文化2011」を東京都港区虎ノ門のJTアートルールアフィニスで開催。第1部の「第64回日本推理作家協会賞受賞者と語る」で、協会理事長の東野圭吾さんと今年の受賞者の麻耶雄嵩さんが対談し、受賞の感想をはじめ選考会の過程の裏話などを披露しました。

第2部のパネルディスカッション「現代的嗜好品の新定義」には、2人に加え、今野敏さん、大沢在昌さん、道尾秀介さんが出演。作家ならではのユニークな視点で人生に彩りを添える嗜好品の魅力や創作にあたる影響などユニモアを交え紹介し、会場に詰めかけた200人を超えるファンらを魅了しました。

その後、出演者のサイン本や協会オリジナルグッズの抽選会が開かれ、盛会のうちに終了しました。(東京広告局)

テレビ東京でスタート

「ISS〜男でも女でもない性〜」

テレビ東京系で7月からスタートした「ISS〜男でも女でもない性〜」は月曜夜10時からの社会派ドラマ枠で放映されています。今回はテレビ面の純広だけでなく記事体広告で展開しました。執筆は「境界を生きる」の連載で早稲田ジャーナリズム大賞を受賞した生活報道部の丹野恒二記者へ依頼。このドラマのテーマである性分化疾

患について造詣が深く、読み応えのある紙面となりました。原作コミックを出版している講談社からも5段1/5の出稿をいただき、広告内にある原作者の六花チヨさんからのメッセージもより深く読者へと伝わりました。講談社の書店でのPOP広告にも丹野記者のコメントが加えられました。(東京広告局)



7月16日朝刊(東京)